

大屋原開拓記念碑

群馬県吾妻郡長野原町

群馬県の北西部、吾妻郡長野原町は人口約5千で、地域のほとんどは標高500m以上の高地。南部の北軽井沢地区には戦前から、避暑を目的に別荘が建てられた。戦後、浅間山の東北麓の6開拓地に、満州（現・中国東北部）からの引揚者らが入植し、荒蕪たる原野を切り開いた。

レタス・キャベツ畑や牧草地が広がる現在の大屋原（おおやはら）地区に、満州に送り込まれた「満蒙開拓団」の慰霊塔と開拓記念碑がある。

慰霊塔はレンガ造りで「群馬満蒙拓魂之塔」と刻まれている。物故者の慰霊供養のため、県下の開拓関係者によって74（昭和49）年に建立された。裏面の「建立の由来」によると、同県から満州への移民は、開拓団と青少年義勇団を合わせ8780余名。45年8月、敗戦による混乱で1680余名が犠牲になった。

慰霊塔の隣は大屋原公民館で、敷地内に開拓記念碑がある。大屋原開拓就農組合が76年に、開拓30年を期して建立したもの。碑銘は「大屋原開拓記念碑」。入植は47年3月から始まった。57年に電気導入、61年に水道完成。記念碑建立時の農家戸数は41戸だった。

碑文には、「戦後の極度な食糧事情の不良のなかにあつて 酷寒とたび重なる台風 冷害 凍霜害と戦いつつ 助けあいはげましあつて築いていったこの『村づくり』の汗と涙の三十年の歴史こそは 将来ここに生きるものにとって永遠に忘れてはならぬものであろう」と記されている。

○ 大屋原開拓記念碑

①位置 群馬県長野原町北軽井沢（36.490375, 138.596036）

②設置者 大屋原組合

③設置日 昭和51年10月

④碑文表 大屋原開拓祈念碑

開拓三十年

木を伐り筈を焼き

芝を起し岩や株を除いて

熊の出る荒野を一畝づつ拓いた

すばらしいみんなのちからよ

乳とりんごと○葉のうましむら

大屋原のあしたは明るい。

煙り吐く火の山のふもとに

くるしみもよろこびも

わかちあいちからをあわせて

この高原を拓いたわれら

いまさらにして知る

ひとりの人の重さと人の世のありがたさを。

開拓の友よ
往くは涯しなく永く遠い
雨の日も風の日も
力を協せ扶けあい
生ける日のかぎり
まもれこのうまし村を
拓翁

⑤碑文裏 開拓祈念碑建立にあたって

第二次世界大戦終焉後の日本政府は 幾多の重大な戦後方策のうち社会不安を除くため もっとも窮乏していた食糧の増産を図るべく国内緊急開拓を占領治下において実施した

ここ大屋原高原に入植したものは 元満州国吉林省磐石県駅前開拓団並びに青少年義勇隊からの引揚者 及び其縁故者と、特に県の認定を得た優秀青年とであった。

標高一千メートル 地力の痩せた浅間山系の火山灰土 カラ松と熊笹の茂ったこの高原に挑んだ開拓者達は不退転の「拓魂」の持ち主であった。戦後の極度な食糧事情の不良のなかにあつて 酷寒とたび重なる台風冷害 凍霜害と戦いつつ助けあいはげましあつて築いていったこの「村づくり」の汗と涙の三十年の歴史こそは将来ここに生くるものにとって永遠に忘れてならぬものであろう

経過を要約すれば

- | | |
|----------|----------|
| 一、入植開始 | 昭和二十二年三月 |
| 二、道路建設 | 昭和二十二年より |
| 三、部落設定 | 昭和二十四年 |
| 四、電気導入 | 昭和三十三年 |
| 五、水道完成 | 昭和三十六年 |
| 六、土地配分完了 | 昭和四十二年 |
| 七、現在農家個数 | 四十一戸 |

顧れば国 県 町や多くの人々に助けられて困苦嘗々 ここに三十年凡そ入植当初よりの目的をほぼ達成したので 宿願の公民館落成を機とし 今後のより高次なる発展に大なる期待をよせてこの碑成るの日 謹んで不幸にも志なかばにして物故した同志の霊を厚く弔い併せて拓友の偉大なる協力を讃えたい

昭和五十一年十月吉日 大屋原組合

組合員氏名

清水圭太郎 ほか

⑥写真 表



裏



周辺（群馬県満蒙拓魂之塔）

